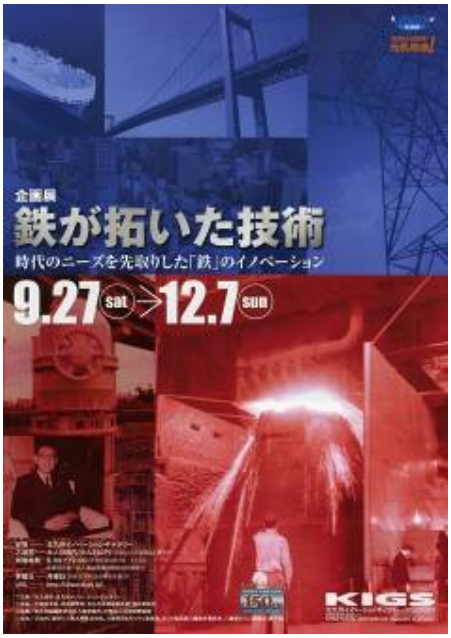
北九州テレビ Internet TV NEWS
http://www.kitakyu.tv DIGEST
お問合せ：info@kitakyu.tv
©北九州テレビ 2008

２００８. 10. ７ 第 64 号



企画展 鉄が拓いた技術

時代のニーズを先取りした「鉄」のイノベーション

―北九州イノベーションギャラリー

北九州イノベーションギャラリー(以下、KIGS 館長：酒井英孝氏 北九州八幡東区東田)では、9 月 27 日(土)から 12 月 7 日(日)まで「鉄が拓いた技術～時代のニーズを先取りした『鉄』のイノベーション～(近代製鉄発祥 150 周年事業の一環)」と題した企画展を開催している。

開催にあたり酒井館長は、「昨年の秋“八幡東田ものがたり”を行いました。これは、昭和の初期の先人達の汗と情熱のイノベーションを資料・古文書・写真で紹介したものです。今回は、第二弾ということで、戦後の復興期から日本、あるいは世界が膨大で品質の高い鉄を要求し、そのニーズに対してどう対処してきたかという物語です。第二次大戦が終わってから後の、日本全体の鉄の生産量は 2,000 万トン/年であったものが、それから 10 年で１億 2,000 万トン/年という膨大な鉄を要求されたわけです。それをクリアできたものは、まさにイノベーションの結果です。そのイノベーションは、連続的に生産でき、品質を向上できるような技術革新があったからこそできたものであります。同企画は、過去のものだけではなく、将来どのようになるだろうかということも映像を含めて展示しています」と語った。

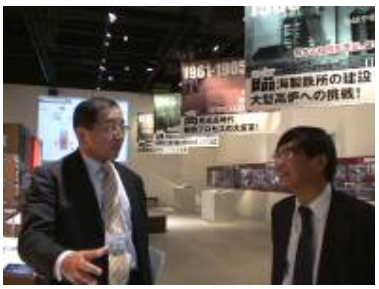
酒井館長

また、新日本製鐵(株)八幡製鐵所の足立仁総務部長は、「この企画は、かなりレベルの高いテーマを取上げている。たとえば、高炉や転炉、連続鋳造、C.A.P.L.(連続焼鈍)が展示されているが、C.A.P.L.の技術は、昭和 40 年代後半から 50 年代前半にかけて稼動し始めた技術です。裏返しますと当時、昭和 48 年ならびに 54 年に第一次・第二次オイルショックがあり、日本の産業界は、大変大きな影響を受け経済的に困難な状況に直面したわけです。それを切り抜けてこられたのも、こういった高速化・連続化技術が格段と進歩したからです。現在では、さらに高速化し技術革新が進んでいる。また、八幡製鐵所では、品質の高いレールを製造しているが、そのレールは日本国内の 7 割を KIGS の前の条鋼工場で生産している。11 月１・２・３日に“まつり起業祭八幡”が行われるが、3 日にはその条鋼工場を見学できるように開放している」と語った。

足立総務部長

同企画展では、八幡製鐵所を中心とした歴史的な写真・映像・資料を展示するとともに、鉄に親しめるように子どもを対象にした遊び場も設置し、大人から子どもまで楽しめるような企画展となっている。

企画展関連イベントとして、講演会：11 月 2 日(日)「ドイツ：ルウオフスキ技師が導いた日本のブリキ製造技術の革新」、12 月 6 日(土)「C.A.P.L.(連続焼鈍プロセッシングライン)開発の軌跡と効率化への道程」、たたら体験「2008 東田たたらプロジェクト“たたらサミット IN 北九州」が開催される。



「炉」のことで話が弾む
櫻木氏と水口氏(関係者)

転炉(左) 連続鋳造設備の原理構造模型(右)